



「龍の瞳」で下呂を豊かに

今井 隆 合資会社「龍の瞳」代表社員



「環境」「地力」「循環」の米作り

「龍の瞳」は00年9月、私が「コシヒカリ」の品種である。私はこの龍の瞳を通じた地域づくりを行い、世界に発信したいと思っている。キーワードは「環境」「地力」「循環」だ。

私の栽培にも受け継がれていた稻の新品種である。私はこの龍の瞳を通じた地域づくりを行い、世界に発信したいと思っている。キーワードは「環境」「地力」「循環」だ。

「地力」は「じりょく」と読む。私の造語である。地域資源と言い換えてよい。

今、日本農業と山村地域が危機的な状況にあることは言をまたないが、最も重要な資源は人。地域活性化とは、つまりそこ人が元気になることである。混交林の山に見えることにより、山菜、きのこ、薬草などが資源になりうると思われる。そして山の幸そのものが観光に結び付くと踏んでいた。それは龍の瞳

私が「環境」に目覚めたのは、20年ほど前の秋。田んぼに農薬を散布していた時に大きな「ミミズ」が2匹、のたうちまわって苦しんでいる姿に衝撃を受けたからである。それ以降、農薬を使わない農法を研究してきた。それは龍の瞳

ノの流れは、生産者から流通業者、消費者の順であるが、お金の流れは逆に動く。つまり地元で生産されなければ、地元にお金が入らない。

05年設立の合資会社「龍の瞳」は、農家さんとの間で、農薬・肥料基準と栽培方法、

下呂市・
◎岐阜市

岐阜

各種法律などを順守する契約を結んだうえで、高額で全量を買い取っている。そして直接、消費者や流通業者、旅館などに販売して、安全性と品質、価格を担保している。

お土産の原材料は、地元で取れた幸を使い、現地で加工していくけば雇用にもつなが

る。現在、どぶ酒、生みそ、半生麺、レトルトご飯などを商品化しているが、今後は地元加工にこだわりたい。

私が最も注目しているのは、焼却処分されている下呂温泉の生ごみ。龍の瞳の米ぬか、畜産堆肥、廃菌床などを混ぜて高温処理する方法で土壤改良剤を作りたい。これは一緒に就きそうである。

弊社は龍の瞳の普及・販売、法的な管理を行うのだが、

山・川の再生、観光への寄与、食農教育などは09年に設立したNPO法人「龍の瞳俱楽部」

によっては、「龍の瞳」で下呂市内でも、今井さんがコシヒカリの中から偶然発見した稻の変異種。コシヒカリの1・5倍の大きさで甘み、香り、かみごたえ、栄養などに優れている。「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」

これまで龍の瞳の田植え、稲刈り体験や田んぼのコンサート、虫の観察会、山歩きなどを実行ってきた。

今、日本の行く末に暗雲が垂れこめているが、「ピングチはチャンス」である。自分たちの地域を嘆いていても始まらない。夢と希望を持ち、少しの勇気を出して動き出した地域こそが、日本を救う核となる。

これまで龍の瞳の田植え、

稲刈り体験や田んぼのコンサ

ート、虫の観察会、山歩きな

どを行ってきた。

これまで龍の瞳の田植え、

稲刈り体